

高知大学 国際連携推進センター

Center for International Collaboration

# くじら便り

第4号

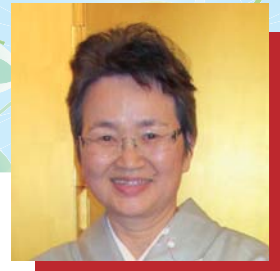
2015年5月発行



# グローバルな国際連携をめざして

高知大学国際連携推進センター長

菊地るみ子



国際連携推進センターが独立して1年余。高知大学の国際化を進めています。この便りが出る頃には、東門のすぐ横に国際連携推進センターが整備されているはず。国際連携のため、大いに活用してください。

国際連携としての大きな取り組みは、2014年8月から9月にかけて実施した JICA（国際協力機構）の課題別研修コース2つです。「総合防災行政」では、ソロモン、ブラジル、セントビンセント、フィジー、コスタリカ、チリ、エクアドル、アルゼンチン、スリナム、モザンビーク、モーリシャスの11カ国から15人が、「子どもの学びを保障するへき地教育の振興-MDGs/EFAの達成に向けて」では、ラオス、パプアニューギニア、ベリーズ、ウガンダ、モンゴル、ミャンマー、レソト、タジキスタン、バヌアツ、イエメン、スワジランドの12カ国から19人が研修員として来学され、学びを深めて自国に戻られました。自国の現状を踏まえ、高知大学と高知県内外での学びを生かして、自国の防災や教育の改善・発展に取り組まれました。それぞれの研修員は、自国で中央政府の行政官や校長・教員など活躍されている方ばかりです。国を背負って高知に来られ、高知大学の先生方をはじめとして、高知県内の自治体や企業、小学校などで、さらに日本国内に足を延ばして意欲的に学び、関わった人たち、子どもたちとも積極的に楽しく交流して、有意義な研修を終えられました。参加された研修員には、今後のご活躍を期待しています。今年も、2つの研修を実施します。関心をお持ちの方は、是非ご参加ください。担当の先生方、関係諸機関の方々、どうかよろしくご指導をお願いします。

また、高知大学に来てくださった留学生には、楽しく学んでいただけるように、学生との交流行事や高知県内の地域の方との交流活動を充実させてきました。学生の皆さんには、様々な国から来ている留学生と、温かい関わりを持って学んでいただきたいと思います。2014年秋には、高知大学の1年生を対象に海外留学についてアンケート調査を実施しました。実施に協力していただきました先生方、学生の皆さんにこの場を借りてお礼を申し上げます。その結果、在学中の海外留学について「強く希望している」9%、「できれば留学したい」46%と、半数以上の希望がありました（図1）。2、3年時に欧州や米国・豪州へ短期間留学を希望する学生が多いという実態も明らかになりました。これらの協定校はわずかです。先生方には出会いを生かして、協定校締結をめざしていただきたいと思います。留学を希望している学生の皆さんには、個別に案内メールを届けます。是非、様々な海外派遣事業に応募して、希望をぜひ実現していただきたいと思います。

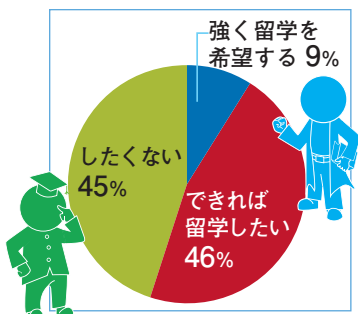
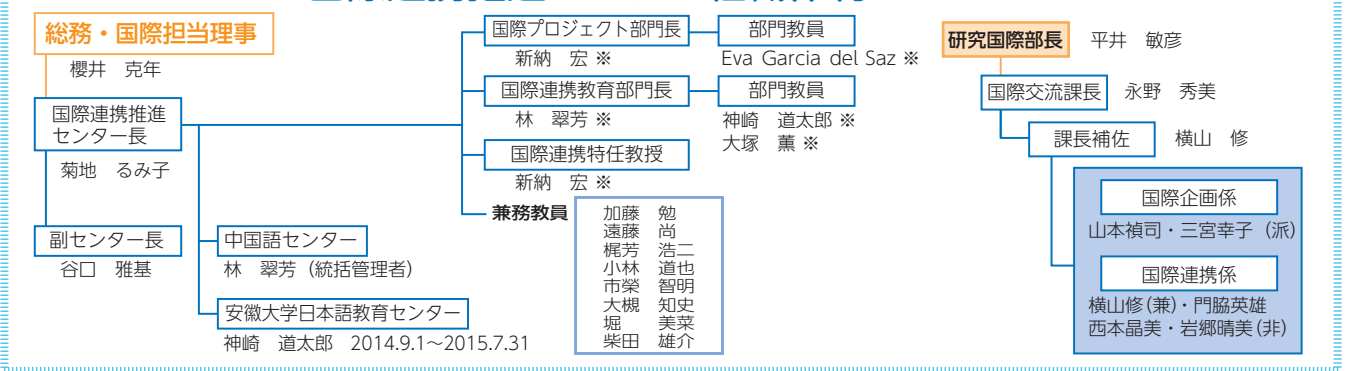


図1 在学中の留学希望について (N=901人)

調査を実施しました。実施に協力していただきました先生方、学生の皆さんにこの場を借りてお礼を申し上げます。その結果、在学中の海外留学について「強く希望している」9%、「できれば留学したい」46%と、半数以上の希望がありました（図1）。2、3年時に欧州や米国・豪州へ短期間留学を希望する学生が多いという実態も明らかになりました。これらの協定校はわずかです。先生方には出会いを生かして、協定校締結をめざしていただきたいと思います。留学を希望している学生の皆さんには、個別に案内メールを届けます。是非、様々な海外派遣事業に応募して、希望をぜひ実現していただきたいと思います。

高知県内が抱えている課題にしっかり向き合い、共通する課題を抱える海外の国や地域とともに解決をめざしていくグローバルな国際連携に取り組んでいきましょう。

## 国際連携推進センター組織体制 (2015.4.1)



※は、センター専任を示す。



## 地域資源を活用した2件の JICA 国際研修を実施

### ■ 「防災」「へき地教育」の国際研修を昨夏に実施

2014年8月から9月にかけて高知大学は国際連携推進センターが主管して JICA 研修2件を受託し実施しました。「総合防災B」コースは8月12日～9月3日に中南米を中心に15人、「子どもの学びを保障する」へき地教育の振興-MDGs/EFAの達成に向けて(A)」コースは9月4日～9月17日にアフリカ・アジアを中心に19人の中央・地方の行政官がそれぞれに参加。本学での講義のほか、国、県や市町村、地域住民の取組みを視察しました。

### ■ JICA 国際研修実施の意義

防災は日本の国家的な課題であるとともに国際協力の重要なテーマですし、教育では国連の Education for All (EFA) イニシアチブにより開発途上国で小学校に通う子供は大きく増加したものの、へき地へのアプローチは課題として残されています。

一方で「防災」「へき地教育」とも高知の抱える大きな課題であり、知(地)の大学としてその課題に向き合う高知大学がこれらの研修を行うのは、地域課題を世界と共有するまたとない機会となりました。

### ■ 総合防災コース

南海トラフ巨大地震による大きな被害が予想される高知県では、沿岸各地で防潮堤、避難タワー、避難路などの整備や自主防災組織の活性化など防災対策が急ピッチで進められています。

各国の研修員は高知市、中土佐町、黒潮町でこれらの施設を視察し、防災への取組みを熱心に聞いて回りました。高知県外では神戸の復興状況の他、東北の被災地を視察し、仮設住宅の住民と懇談したり、多くの犠牲者を出した避難場所を訪れるなど、防災・避難・救援・復興の各段階を体感しました。



高知市で防潮堤工事を視察



高知大学附属小学校では給食体験も

### ■ へき地教育コース

高知県は歴史的にへき地校の割合が高く、へき地教育への取組みが進んでいます。最近ではへき地校の統廃合が進み、地域コミュニティと学校との関係に新たな課題も生じています。

研修では本学教員の講義の他、附属小学校で複式授業を視察したり、へき地校では仁淀川町立別府小学校を訪れて校内研修の様態を視察したりするなど、へき地学校の運営や教育法の実践的なノウハウを学びました。また、愛媛県の上島町立弓削小学校でも児童との交流や給食を体験し、放課後活動を視察して、教育レベルの高さと課外活動の活発さに驚いていました。

### ■ コース設計の特徴と評価

両コースとも「課題先進県」高知の先進的な取組みを取り上げ、視察と講義を組み合わせ、実践的・総合的な内容としました。さらに、神戸、東北、愛媛などテーマに関係する地域への豊富な視察日程を組みました。全日程にコースリーダーを配置し、業務日誌を通して研修員の疑問に徹底的に答えたのも特徴です。

その結果、研修員による研修終了時アンケートでは「総合防災」コースでは15人全員が「コース設計は適切であった」と回答し、全員が「本研修の成果が自国で直接活用または応用できる」と回答しています。また、「へき地研修」コースでも19人中18人が「適切」、19人中18人が「自国で活用、応用可能」と回答しています。

### ■ 今後に向けての課題と取組み

今後の課題としては、本研修コースの教育面での積極的活用があげられます。コース内容が実務的かつ総合的であり、学生のみならず教員にとっても有益な内容なうえ、国際的な課題を知ることも可能です。将来的にはこれらの分野で得られた各国情報を活用し、各国行政府との連携による国際比較研究も考えられるでしょう。もちろん、学内の実施体制の整備も重要です。

課題先進県としての高知県、COCとしての高知大学にはこのほかにも実践的な「産業振興計画づくり」や「土佐FBCによる食品加工人材の育成」など、まだまだ国際的にも価値のある取組みがあります。センターとしては今後も宝物を発掘して国際連携を進めていきたいと考えています。

## ●●● 日本語集中コースを受講して ●●●

### 日本語の学習を通じた互いの文化と人生経験の共有

**BUXTON THOMAS (トーマス)**

連合農学研究科生物資源利用学専攻博士課程1年生 (日本語集中コース受講2014.4～8) / ガーナ

2014年の4月11日、私をはじめて教室に足を踏み入れたとき、日本語は私にとって、なにも意味をなしませんでした。ひらがなとカタカナも少しの意味もありませんでした。親切でやさしい先生方が、私に日本語をもっと勉強したいと思わせてくれました。

いま、私はまだ日本語をすべて理解できませんが、4か月でひらがなとカタカナ、150くらいの漢字が分かるようになりました。そして日本語の会話を理解して、また日本語で意見を述べるできるようになりました。テレビのニュースやドラマ、映画で話されている内容も分かるようになりました。お店やスーパー、電車を数か月前よりも快適に利用できるようになりました。

しかし、すべて簡単なことではありませんでした。何度も自分自身にどうして日本語を勉強するのかと問いかけました。朝早く物部から朝倉に通うことは大変で、授業の進むスピードも速く、苦勞しました。しかし、素晴らしい先生方のおかげで、ストレスを感じませんでした。先生方が私と友だちのリュボさんにとってもやさしく、居心地よくさせてくれて、わたしたちは幸せです。日本語を学ぶだけでなく、文化や人生経験を共有しました。

すべての先生に感謝します。先生方は、私の人生の一部です。先生といえば、先生方のことをかならず思い出すことでしょう。本当にありがとうございました。



### 日本語の学習を通じた日本文化への理解の深化

**DIMITROV LYUBOMIR ROSENOV (リュボ)**

人文学部研究生 (日本語集中コース受講2014.4～8) / ブルガリア

私はリュボミル・ディミトロフと申します。ブルガリアから来ました。文部科学省奨学金のおかげで、専門の研究のために日本に来ることができました。「日本の経験を通じて、ブルガリアの国際イメージを向上させる」というのが私の研究テーマです。この研究を通して、日本とブルガリアの相互理解が一層深められることを願っております。

日本語や日本についての知識を深めるのに、この日本語集中コースは役に立っていると思います。この授業で得た経験や知識で、日本の文化をもっと深く理解して、日本での生活において起こるいろいろな問題にもっとうまく対応することができると思っています。そしてこの経験のおかげで、私は今行っている研究をもっとうまくできていると思っています。

これからも研究のために勉強しつづけます。日本の生活に慣れて、高知大学の新しい学期を楽しみにしています。色々な知識と経験を心得、必ずこのプロジェクトを頑張ります！

日本と日本の文部科学省、在ブルガリア日本国大使館、高知大学、日本語の先生、私の専門のアドバイザー山下先生と国際交流課のスタッフのみなさま、そして私を助けてくれたすべての人に感謝の気持ちを表したいです。みなさまのおかげでここまで来ることができました。



### 日本語という新しい世界 NORLYDIAWATI BINTI ANIN (リーディア)

教育学部研究生 (日本語集中コース受講2014.10～2015.2) / マレーシア

日本で研究することは、私の子供のときからの夢です。私は日本に来て、日本の教育と文化を習うことができ、本当に幸せです。日本大使館から合格の結果をもらったとき、私は日本語を何も知らなかったのが、新しい世界に入ることがとても怖かったです。

日本語のコースの初めの日、開講式がありました。私は歓迎され、とても嬉しかったです。しかし、日本語は全然わかりませんでした。幸運なことに、私はたくさん経験がある先生方に教えてもらうことができました。

私は、失読症や学習障害の児童を教えています。今、私は学ぶことについての知識がないとき、彼らがどのように感じるかを理解することができます。私の日本語の先生は熱心で真面目で、それに経験もあります。私はクラスで学ぶのが遅い学生です。先生方は私を励まします。私はいつも言葉を思い出すことができないとき、非常に恥ずかしいですが、毎日、先生方に感謝しています。

このクラスは、私にとってとても役に立ちます。今、私は、日本語で話すことができますが、それは楽しいし、おもしろいです。私の日本語はまだまだですが、私は勉強しつづけるつもりです。今、私は多くの日本人と留学生の友達がいいます。私は、とても幸せです。



## 留学生のメッセージ

### 高知大学に入学して

邸万夫 (DI Wangfu) 人文社会科学専攻修士課程 1年生 / 中国

「もっと飛躍が遂げたい」、こう思った私は他のどこでもなく、日本で勉強することを選びました。

一人で中国から日本へやってきた私は、「さびしいと思わないのですか。」「勇気がいりませんでしたか。」と、聞かれたことが多々あります。海外での一人暮らしは、確かに簡単なことではありません。さびしさを感じたこともあります。しかし、私には「さびしい」という気持ちを勝っているものがありました。それは、本州にいたときから感じていた「四国が見たい」という好奇心です。

ようやく好奇心に胸を膨らませ、希望していた高知大学へと進学という夢が叶いました。実際に高知で暮らすようになるまでは、ここでの生活のむずかしさは想像もしませんでした。それは土佐弁の難しさです。日本語専攻で、何年間も日本にいた私にとって、「土佐弁」はしんどい、恐怖心すら感じたことがありました。人文学部のゼミに入って、先生方に、土佐弁について、「ゆう」「ちゅう」「き」など、それぞれ詳しく説明していただきました。こうして、私は困難に立ち向かうことができました。

必要なのは、「勇気」よりも「自信」だと思っています。自信が持てるようになると信じることで、できなかったことができるようになった自分に気づくことが大切です。



### 高知大学で見つけた新しい夢

ヤデ チャンドラ (Yade Chandra) 教育学部 特別聴講生 / インドネシア (リア外国語大学)

インドネシアでは日本語と日本の文化についてのみ勉強していました。その時私はずっと翻訳者あるいは通訳者になりたいと思っており、他の仕事を考えていませんでした。ところが2014年9月に高知大学の教育学部に留学し、色々な日本人の大学生や他の留学生に出会いたくさん友達ができました。私の日本人の友達の一人は、将来良い先生になれるように一生懸命勉強しています。実は小さい頃から私にとって先生のイメージはいつも悪いことばかりでした。ですので、先生になりたいという考えを一度も持ったことがありませんでした。しかしその友達に感心して私の先生に対するイメージが変わってきました。

また、小学生と幼稚園児に英語を教えたり交流したりする機会がありました。そのことを通じて日本の子供達はインドネシアの子供達と比べると、より規律正しいことを知りました。このことは子供達の教育と関係があると思います。インドネシアの都会の子供達は普通は十分教育を受けることができますが、そういった子供達が規律を守らなくてわがままな成人に成長してしまうという社会現象が起こっています。

以上のことから、子供達が良い知識を持って規則を守る成人になれるように良い先生になりたいと思うようになりました。それは私が高知大学で見つけた新しい夢です。



### 高知大学での経験は夢への「柱」

裴 永斌 (Bae Young Bin) 人文学部 特別聴講生 / 韓国 (釜山外国語大学)

私にとって高知大学は、夢への原動力である。私は釜山外国語大学校に入学してから、通訳の道を行ってきた。通訳は言語を自在に操る能力以外にも様々な知識が求められるが、何よりも日本への正しい理解や実務経験が必要であると思う。このように様々な経験を積み、学べるところが高知大学であった。色々な国々から来た留学生との付き合いを通して、文化への幅広い視野を育むことができた。そして、専門科目の授業を通して日本人の友だちが沢山でき、日本文化が学べ、さらに日本語力も伸びるきっかけになった。学外活動では、高知SGG善意通訳クラブという非営利団体で高知大学の留学生として初めての会員となり、翻訳と通訳活動もすることができた。かけがえのない人との付き合いと経験を高知大学ですることができて大変嬉しく、また、本当に誇りに思っている。これからも、夢を叶えるため、高知大学での経験を柱とし、歩んでいきたいと思う。





# 中国留学体験ツアーに参加して

島 章恵 (SHIMA Fumie) 人文学部国際社会コミュニケーション学科2年生/日本

私は中国体験留学ツアーに参加しました。高知大学と協定校の中国の天津師範大学で、2014年9月1日(月)から9月8日(月)の8日間、中国の文化体験や中国語や中国の歴史について学習してきました。8日間で体験したことや感じたことなどを書こうと思います。

## ◆9月1日(月)《1日目》

関西国際空港を昼頃に出発し、夜に天津に到着した。空港がある郊外から大学のある市街地までの道のりは、景色がどんどん変わっていき、中国の発展を象徴していると感じた。



## ◆9月2日(火)《2日目》

午前中は開講式があり、一人ずつ挨拶をした。その他、太極拳体験と午後からは中国切り絵体験をした。太極拳も中国切り絵も実際に体験してみて、とても繊細で中国の素晴らしい文化だと思った。特に太極拳は見るのも初めてだったので、とても興味深かった。

## ◆9月3日(水)《3日目》

午前中は中国語の授業と中国書道体験。午後からは、五大道見学、そして天津規格博物館へ行った。天津はヨーロッパの租界地だったこともあり、五大道周辺は特にヨーロッパ風の建物が、たくさん残っていた。博物館では、天津の歴史や特色などを学び、中国での天津の役割などを知ることができた。夜は天塔からの夜景を見て、天津は改めて大都市で発展している街だと思った。

## ◆9月4日(木)《4日目》

午前中は中国語の授業。先生が天津でポピュラーな朝ごはんを買ってきてくれたので、試食をした。すごく美味しかった。午後は古文化街を散策。古い中国様式の建物を再現しているの、伝統的で中国らしい雰囲気だった。日本人と分かると片言の日本語で話しかけてくる店員も多かった。古文化街は中国の文化や歴史などを雰囲気を感じられる場所で、凄く楽しかった。

## ◆9月5日(金)《5日目》

午前中は中国の首都である北京の文化紹介の授業を受けて、午後は版画体験と天津師範大学の新キャンパス見学をした。新キャンパスは予想以上に広く綺麗なキャンパスだった。私達は新キャンパスの一部しか見ていないけれど、緑も多いし、大学内の施設なども充実しているようなので、勉強に専念することができるような環境が整っているなどという印象を受けた。

## ◆9月6日(土)《6日目》

天津師範大学の学生と共に、1日かけて北京観光をした。天安門、故宮博物館、頤和園、オリンピックセンターなどを訪れた。中国の首都だけあって、やはり人の数がとても多く



て驚いた。北京の様々な風景や光景を見て、中国の現状を少し目の当りにした。また、この1日で天津師範大学の学生とも交流がすることができ、仲良くなれて良かった。

## ◆9月7日(日)《7日目》

自由行動の日だったので、天津師範大学の学生と天津の街を散策した。観光名所を巡る遊覧船に乗って船からの景色を楽しんだり、現地の大学生がよく遊びに行くというデパートやショッピングセンターなどに連れて行ってもらったり、現地の大学生になったかのように学生と一緒に楽しむことができた。会って2日しか経っていないのに学生と仲良くなれたことが嬉しかったし、天津の街を色々紹介してくれて知ることができたので大変有意義な1日が過ぎたと思う。

## ◆9月8日(月)《最終日》

天津を朝出発して、午後無事に関西国際空港に到着した。

今回のツアーで中国を訪れてみて、歴史的な建造物も立派で芸術も素晴らしいと思ったし、なにより中華料理は美味しくて、私が想像していたものをはるかに超えていました。毎日の中国語授業は英語と中国語が飛び交っていて日本での授業とは少し違い、楽しく授業を受けることができました。街を歩いているときに中国の交通規則がめっちゃくちゃだったことには驚きました。このツアーで、初めて体験することや文化の違いに驚くことが多かったのですが、実際に参加して中国で様々な体験ができました。私はマスコミや書籍が伝える中国についての記事を見て自分の中であまり中国に良いイメージがなかったのですが、ツアーに参加すると決めてからも少し不安がありました。しかし、実際に中国に行ってみると自分の目で色々見たり、この8日間で中国を体感したりして、今までの中国に対する偏見などは少しなくなったと思います。テレビなどの情報だけで判断するのはよくないと思ったし、実際に足を運んでみるのが大事だと思いました。また、今回のツアーで様々な中国の文化に触れてみて、中国に興味を持つきっかけとなったと思います。もっと中国を知りたいし、歴史的なことも学んでみたいと思うようになりました。今までは全く興味はなかったのですが、中国と日本は同じアジアで近い国同士です。これからも結びつきは強くなっていくと思うので日本と中国についての知識ももっと勉強して理解していかなければいけないと思いました。また天津師範大学の学生と仲良くなれたので、もっともっと中国語を勉強して次に会うときには中国語でコミュニケーションがとれるように頑張ろうと思いました。今回のツアーでは引率者の先生を含め、天津師範大学の先生やガイドさんにお世話になったのでとても感謝しています。今回の中国留学体験ツアーでたくさん学ぶことができたし、参加して良かったなと思っています。ありがとうございました。





## 「地域中小企業の海外人材確保・定着支援事業」

(「アジア人財資金構想」高度実践留学生育成事業自立化後)

2013年度に引き続き、四国生産性本部が経済産業省から委託を受けた「地域中小企業の海外人材確保・定着支援事業」を同法人と本学が共同で以下のとおり実施しました。

なお、本事業の変遷は「アジア人財資金構想高度実践留学生育成事業」(2007～2010年度)、「本学独自の留学生支援事業」(2011～2012年度)及び本事業(2013～2014年度終了)となっています。

### ● 就職活動ガイダンス

2014年7月1日から2015年1月7日までにかけて、「日本で行う就職活動のスケジュールと仕組み」、「自己理解&業界・企業研究」、「エントリーシート作成」及び「面接対策とマナー」のテーマにより全4回のガイダンスを実施しました。(参加留学生24名)



● 就職活動ガイダンス

### ● ビジネス日本語授業

2014年5月28日から8月6日まで、本センターの神崎道太郎准教授が20コマ(40時間)のビジネス日本語授業を実施しました。

授業は就職活動にかかる語彙の学習、ビジネスマナー、ビジネス文章・会話及び対人関係や仕事の段取りの対応力育成等について系統的に実施しました。(参加留学生6名)



● 企業バス見学(ひまわり乳業)

### ● インターンシップ派遣・同報告会

2014年8月から9月にかけて、県内5社で留学生延べ6名がインターンシップを実施し、参加者の内、3名が同報告会(2014年11月5日)で発表を行いました。

### ● 企業バス見学・企業人事担当者と留学生との交流会

2014年10月22日、留学生8名が参加した企業バス見学会を実施しました。ひまわり乳業株式会社では、牛乳業界の知識を得るとともに商品の試飲を行いました。株式会社技研製作所では人事担当者との交流会を併せて実施し、留学生から積極的に質問が出されました。工場見学では地下駐車場設備等、魅力的な施設を見て回りました。



● 高知地域連絡会

### ● 2014年度高知地域連絡会

2014年11月5日(水)(人文学部第2会議室)

「地域中小企業の海外人材確保・定着支援事業」を高知地域において効果的かつ円滑に推進するために、各関係機関の協力・連携を図る場として設置された「高知地域連絡会」を開催し、事業の説明及び情報交換等を行いました。

### ● 外国人留学生対象『ビジネスマナー』講座

2015年1月19日、23日の両日、外国人留学生対象のビジネスマナー講座を実施しました。講師から留学生に幅広く丁寧な指導が行われました。特にお辞儀については、視線や一連の動作の中での緩急に気を付けることで、目に見えて上達しているのを感じました。(参加留学生8名)



● 「ビジネスマナー」講座



## 2014 年度留学生関係活動報告

### 留学生と学長を囲む会

2014年5月21日(水)に朝倉キャンパス学生会館にて「留学生と学長を囲む会」が開催され、留学生と日本人学生39名、教職員10名、合計49名が参加しました。会では中国、韓国、タイ、スウェーデンからの留学生が「日本に来てからの異文化体験」のテーマでそれぞれの体験を発表しました。

留学生の発表の後、脇口学長からそれぞれの発表者に対してコメントと留学生が感じた日本文化が形成された理由や日本人の心理、日本文化の伝統等についての説明がありました。出席者にとって日本文化に対する理解がさらに深まるとともに、留学生と日本人学生の交流の場ともなりました。



### 留学生と日本人学生の合同講習交流会

2014年7月5日(土)、留学生と日本人学生との相互理解・相互交流を促進するため、牧野植物園にて合同講習交流会を実施しました。2013年に続き今年は2回目の開催となりましたが、留学生・日本人学生、教職員を合せて37名の参加がありました。

今回の合同講習会では、外国人留学生による海外協定校の紹介や日本人学生による海外協定校への留学体験の発表があり、聞く人を惹き付け、協定校への留学意欲を掻き立てる内容でした。また、外国人留学生や日本人チューターによる体験発表があり、チューターと留学生の相互理解をどのように図ったらよいか、大変参考になりました。



### 第4回 カルチャーカフェを開催

2014年6月4日(水)、おうちクラブ(朝倉キャンパス)にて第4回カルチャーカフェが開催されました。参加者は留学生、日本人学生、教職員合わせて20人でした。

カフェではインド出身のミーン・グプタ研究員をゲストに迎え、インドの紅茶、その歴史と栽培・加工の特徴、チャイ文化について紹介してもらい、その後、チャイの作り方の実演と試飲を行いました。お茶請けにはグプタさん手作りのサモサが振る舞われ、女子学生はサリー試着も体験しました。



### 中国留学体験ツアーを実施



2014年9月1日(月)～9月8日(月)にかけて、国際連携推進センター企画事業として、協定校天津師範大学(中国)の協力により、中国語基礎授業や太極拳などの体験授業、学生との交流、天津・北京市内の見学などを実施しました。これは、協定校での体験授業や学生交流などを通じて、中国の歴史や異文化に対する理解、中国語学習に対する意欲向上、海外留学に対する関心をもってもらうことを目的に行われたもので、学生5名、職員1名、引率教職員2名が参加しました。

### 外国人留学生のための進学説明会(JASSO)に参加

日本学生支援機構(JASSO)主催の「外国人留学生のための進学説明会」が7月12日(土)に東京、7月13日(日)に大阪で開催され、それぞれ教職員3名が参加しました。学部や大学院への進学希望の外国人学生に対して、本学の特色ある教育や入試、学生生活等に関する最新の情報提供を行いました。例年、来場者の中から数名が入学しており、広報の効果が期待されます。

#### 東京会場：

2,536名(昨年度2,327名)、  
本学ブース訪問者：47名

#### 大阪会場：

1,313名(昨年度1,095名)、  
本学ブース訪問者：33名



### 外国人留学生課外研修を実施

2014年10月25日(土)から26日(日)にかけて、2014年度入学の外国人留学生を対象に高知県西部の幡多地域への1泊2日の課外研修を実施しました。この研修は、外国人留学生が日本の歴史や文化を体験し、地域への理解を深めるとともに、留学生間の親睦・交流を図ることを目的としており、留学生42名、日本人学生スタッフ4名、教職員6名が参加しました。

1日目の研修では、留学生は、四国最南端の足摺岬の展望台から岬先端の断崖に立つ白亜の灯台や岩にくだける白い波頭を眺め、青い空の下に広がる雄大な太平洋に感動していました。

2日目の研修では、鯉のたたきや新鮮な魚介類が豊





## 2014 年度留学生関係活動報告

富に並ぶ中土佐町の久礼大正市場や海岸を散策し、ゆったりとした時間を過ごしました。留学生や日本人学生にとって有意義な研修となりました。

### 巻き寿司体験

2014年11月9日(日)、桜ライオンズクラブの協力により、外国人留学生のための巻き寿司体験が RKC 調理師学校で行われました。

当日は中国、フィリピン、スウェーデン、インドネシアなど7つの国と地域から23名の留学生が参加し、巻き寿司作りに挑戦しました。巻きすを使う寿司を作るのは初めてという学生がほとんどで、それぞれが自分の好きな具材を入れて見た目にもこだわった寿司を作っていました。



### ミニディーを支援 (朝倉ふれあいセンター)

2015年1月16日(金)、朝倉ふれあいセンターで開催された高知市老人クラブ連合会主催の地域交流ミニディーに韓国からの交換留学生3名が参加し、老人会の皆様と交流の場を持ちました。



3人の留学生は、自己紹介とともに韓国の民族衣装や料理、言葉等を紹介した後、それぞれ歌やテコンドーを披露しました。そして、老人会の皆様からはお返しに歌が披露されました。お昼はふれあいセンタースタッフによる手作りのちらし寿司やぜんざいが振る舞われ、笑顔あふれる交流会となりました。

### 2014年度学長主催外国人留学生等交流懇談会を開催



2014年12月10日(水)、高知大学生協食堂(朝倉キャンパス)において、2014年度学長主催外国人留学生等交流懇談会を開催しました。協口学長の挨拶に続き、3キャンパス(朝倉、岡豊、物部)代表留学生による日本語や英語でのスピーチが行われ、日頃からお世話になっている関係者への感謝の気持ちが述べられました。

本年度は留学生による歌やダンスの余興に加え、日本人学生による尺八演奏や民謡が披露されました。また、参加者全員と高知大学合唱団による学歌合唱のあと、余興の最後では留学生による多言語での「幸せなら手をたたこう」が披露され、会場は多くの言語が飛び交い大いに盛り上がりました。本年度は朝倉キャンパス内での開催ということもあって、211名にもものぼる参加者が集いました。

本年度は留学生による歌やダンスの余興に加え、日本人学生による尺八演奏や民謡が披露されました。また、参加者全員と高知大学合唱団による学歌合唱のあと、余興の最後では留学生による多言語での「幸せなら手をたたこう」が披露され、会場は多くの言語が飛び交い大いに盛り上がりました。本年度は朝倉キャンパス内での開催ということもあって、211名にもものぼる参加者が集いました。

### 高知大学教育学部附属特別支援学校との交流

2015年1月10日(土)、本学教育学部附属特別支援学校の生徒とその保護者等計38名が「留学生との交流会」に参加し、韓国の留学生3名とともに、キムチチゲ、チヂミ、ビビンバを調理して、交流を深めました。それぞれのグループで、生徒・保護者と留学生が協力しながら楽しく調理をしました。



### 国際C級グルメ大会に参加(朝倉ふれあいセンター)

2015年1月24日(土)、朝倉ふれあいセンターで開催された恒例のC級グルメ大会に韓国、中国、フィリピン、モンゴル、マレーシア、ブルガリアの留学生が参加しました。また、新納国際連携コーディネートターも世界三大スープの一つ、トムヤンクンを作り、合計7ヶ国の料理を出品しました。



朝からふれあいセンターの調理室は活気にあふれ、さまざまな言語が飛び交う中、慣れた手つきで各国ご自慢の家庭料理が次々と作られていきました。大会はお昼に合わせて始まり、地元の方々からも地元の食材で工夫を凝らした家庭料理が出品されました。会場の皆さんは談笑しながら、色鮮やかに盛り付けられたそれぞれのお料理を堪能し、大変有意義な食文化の国際交流の場となりました。

### 中国料理に挑戦!

2015年2月8日(日)、朝倉小校区青少年育成協議会主催による朝倉中学校の生徒を対象にした料理教室が、朝倉ふれあいセンターにて開催されました。今回のテーマは「中国料理に挑戦!」で、本学の中国からの留学生、邱万夫さんと陳新陽さんが講師に招かれ、「手羽中コーラ煮」と「黒酢あんかけほうれん草いり(入り・煎り)たまご」の作り方を指導しました。料理はなかなかの出来栄で、参加者一同で試食しました。朝倉中学校の先生及び青少年育成協議会のメンバーも参加され、食を通じて、国際交流、国際理解を図ることができました。



## 2014年度国際交流関係活動報告

### マレーシア・プトラ大学の学長表敬訪問

2014年4月16日(水)、マレーシア・プトラ大学の副学長他4名の関係者が高知大学を表敬訪問し、脇口学長他本学の関係者と会談しました。



同大学とは、2007年の協定締結以降、農学部を中心に研究者や学生交流を盛んに行っています。会談の中で、マレーシア・プトラ大学からは、農学部に加え医学部との新たな交流など、今後の交流の展望について語られました。今後益々両大学の学術交流が活発化することが期待されます。

### 在京バングラデシュ大使館経済公使による学長表敬訪問



2014年4月28日(月)、バングラデシュ大使館経済公使が高知大学を表敬訪問し、脇口学長他本学の関係者と会談しました。

学長表敬訪問に先立って、農学部では、経済公使とバングラデシュ出身の留学生8名との歓談も行われました。同学部は、シュレバングラ農科大学と2012年に協定を締結しており、今後の学術・学生交流の活発化が期待されます。

### ガーナ大学オウス教授(本学大学院修了生)による学長表敬訪問

2014年5月13日(火)、ガーナ大学教授で、本学大学院修了生でもあるオウス教授ほか Twifo 市の関係者4名及びミナポート会(民間国際交流団体)の関係者等が高知大学を表敬訪問し、脇口学長他関係者と会談しました。



会談に先立ち農学部を訪問したオウス教授から、文部科学省の奨学金などが予定された学生を毎年1名ずつは派遣したいとの希望が示され、今後の学術・学生交流の発展が期待されます。

### タンジュンプラ大学(インドネシア)関係者による学長表敬訪問

2014年10月15日(水)、タンジュンプラ大学(インドネシア)の教員及び学生10名が高知大学を表敬訪問し、脇口学長他関係者と会談しました。

今回の日本訪問は、独立行政法人科学技術振興機構

(JST)が実施する「さくらサイエンスプラン」によるもので、高知県の恵まれた自然を利用した最先端の研究にふれるべく、本学の施設見学や学生、研究者との交流をはじめ、高知県内の研究施設見学等、10日間のスケジュールを精力的にこなしました。



### 高知大学タイリエゾンオフィスを開所

タイにおける本学の海外拠点として4ヶ所目となる「高知大学タイリエゾンオフィス(Kochi University Thailand Liaison Office)」を2014年11月20日(木)、大学間協定校であるカセサート大学内に開設しました。



開所式には菊地副学長や、カセサート大学関係者をはじめ、タイ国内の協定校関係者や本学卒業生、在タイ日本国大使館などから総勢40名が参加しました。

同日、タイ同窓会(Kochi University International Student Network (Thailand) Alumni Association: KUTAA)第1回総会を開催し、会長(Dr. Lattirasuvan Thanakorn)や副会長(Dr. Maliwan Tanasombat, Dr. Naruemol Kaewjampa)役員(Dr. Chongrak Wachrinrat)、櫻井克年理事、新納宏特任教授などが選出されました。同窓会では、今後の活動に関して活発な意見交換や提案がなされました。

### チェンデラワシ大学(インドネシア共和国)との学術協定の更新

2014年12月5日(金)、チェンデラワシ大学との間で、学術交流及び学生交流に関する協定書を更新しました。高知大学で行われた調印式には、チェンデラワシ大学の Karel Sesa, M. Si 学長ほか12名が出席し、高知大学脇口学長が協定書に署名しました。

同大学とは医学部を中心として研究者や学生の派遣・招聘による交流、共同研究を活発に行っており、今後の交流活動の発展が期待されます。



### ハルオレオ大学(インドネシア共和国)との学術交流協定の更新

2014年12月9日(火)、ハルオレオ大学との間で、学術交流及び学生交流に関する協定書を更新しました。高知大学で行われた調印式には、ハルオレオ大学の La Rianda(学長代理)ほか9名が出席し、高知大学脇口学長



## 2014 年度国際交流関係活動報告



が協定書に署名しました。  
同大学とは農学部を中心として研究者や学生の派遣や共同研究を活発に行っており、今後の教育・研究面での交流活動の発展が期待されます。

インドネシア共和国側からは、同国の東側地域にある大学への支援を強化すること及び当該地域の大学との協定締結も視野に入れ、本学との今後の学術・学生交流を期待しているとの説明がありました。



本学からは、インドネシアをはじめとする東南アジアの国々との交流を重視しており、インドネシアではプラビジャヤ大学をはじめとして、現在までに7機関との学術・学生交流等を締結し、活発な交流を行っていることが紹介されました。インドネシアにある大学との今後の学術・学生交流の進展が期待されます。

### 在大阪インドネシア共和国総領事館・総領事の学長表敬訪問

2015年2月23日(月)、在大阪インドネシア共和国総領事館のウィスヌ・エディ・プラティグニョ総領事及び領事2名、通訳1名が高知大学を表敬訪問し、脇口学長他本学の関係者と会談しました。

## 2014 年度研修・講演会関係

### 2014年度高知大学国際連携推進センター 講演会&ワークショップ

#### 「日本語の発音の‘正しさ’について —日本語学習者は何を聞いているか—

2014年6月21日(土)、高知大学国際連携推進センター主催の講演会及びワークショップが行われました。講師には、大阪大学教授岩井康雄氏をお招きし、「日本語の発音の‘正しさ’について—日本語学習者は何を聞いているか—」という演題で話をうかがいました。当日は雨がぱらつく中、高知大学教職員、日本人学生、留学生のほか、一般の方々にも出席していただき、合計57名の参加となりました。

講演会では、日本語の母音の無声化と促音化、モーラの不安定さ等について説明があり、特に「日本語が好むリズム」—「長短>長長>短長」について、「長短(バーバ) VS 短長(ババー)」では語の持つイメージが正反対になるという話は多くの聴衆を惹き付けました。

ワークショップでは、講



演会のテーマをさらに深く掘り下げて、参加者が講師の先生と議論を交わすとともに、日ごろ日本語教育の現場でぶつかっている問題について意見交換を行う等、中身の濃いものとなりました。

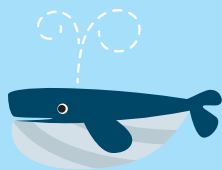
### 2014年度高知大学国際連携推進センター 主催国際研修実施事業

#### 「私の体験的中日比較関係論」

2015年1月28日(水)、高知大学メディアホール(メディアの森6階)にて、講演会を実施しました。講演会には、中国の東北大学秦皇島分校言語学院から彭広陸教授をお招きし、「私の体験的中日比較関係論」というタイトルで講演をしていただきました。彭広陸教授は同じ漢字圏の中国と日本を、ご自身の体験を通じて比較検討されてお話しくださり、相互理解が促進できる機会を私たちに提供してくださいました。本学関係者の他、高知県内の国際交流関係機関から約40名が講演会に参加しました。



## 編集後記



2014年度4月より国際連携推進センターが歩み出して1年経ちました。「くじら便り」の編集とともに、センターの1年の活動を振り返るよい機会となりました。留学生と地域との交流がますます広がりを見せる中、2頁にも掲載している「JICA 国際研修事業」が実施され、センターの新たな取組みとして注目されています。紙面の関係ですべての活動をここに掲載することができませんでしたが、どうぞ今後とも皆様の一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。「くじら便り」第4号も無事発行されましたことに深く感謝申し上げます。(林翠芳 記)

## 2015年度第1学期 国際連携推進センター教員(専任・非常勤)担当授業時間割

時 限	開講キャンパス等	月 (MON)	火 (TUE)	水 (WED)	木 (THU)	金 (FRI)
I 8:50～10:20	日本語集中(朝倉)	基礎文法(吉田)	基礎文法(石川)	基礎文法(池)	基礎文法(尾中)	基礎文法(大塚)
	日本語総合(朝倉)			中級聴解 I (今井)		
	日本語総合(物部)		初級Ⅳ(大塚)		初級Ⅳ(今井)	
	日本語総合(岡豊)					
	共通教育				日本語Ⅰ(林)	
II 10:30～12:00	日本語集中(朝倉)	基礎文法(吉田)	基礎文法(石川)	基礎文法(池)	基礎文法(尾中)	基礎文法(大塚)
	日本語総合(朝倉)			初中級会話Ⅰ(今井)	初中級文型(石川)	中級作文(池)
	日本語総合(物部)	中級聴解・会話(林)	初級Ⅱ(大塚)		初級Ⅱ(今井)	
	日本語総合(岡豊)					
	共通教育		日本語Ⅰ(林)			
III 13:10～14:40	日本語集中(朝倉)	初級漢字・語彙(尾中)	初級聴解・会話(林)		初級聴解・会話(林)	初級作文(吉田)
	日本語総合(朝倉)		中級会話Ⅰ(石川)		アカデミック日本語Ⅰ(大塚)	中級漢字・語彙Ⅰ(尾中)
	日本語総合(物部)					
	日本語総合(岡豊)					
	国際人材コース カウンセリング		エバ	物部(東條)13:00～15:00		Political Economy of Japan(新納)
IV 14:50～16:20	日本語集中(朝倉)					
	日本語総合(朝倉)					
	日本語総合(物部)					
	日本語総合(岡豊)					
	教育学部 オフィスアワー		林・エバ	異文化理解 A (林・大塚)	大塚	
V 16:30～18:00	日本語集中(朝倉)					
	日本語総合(朝倉)					
	日本語総合(物部)					
	日本語総合(岡豊)			日本語中級(東條)	日本語初級・日本事情(東條)	

\*農学部大学院集中講義(2単位)(新納)

## 2015年度第2学期 国際連携推進センター開講授業予定

プログラム別	科目名	開講キャンパス	プログラム別	科目名	開講キャンパス
日本語総合コース(補講)	初中級文法	朝倉	日本語総合コース(補講)	高知事情	朝倉
日本語総合コース(補講)	初中級会話Ⅱ	朝倉	日本語総合コース(補講)	日本語初級Ⅰ	物部
日本語総合コース(補講)	中級漢字・語彙Ⅱ	朝倉	日本語総合コース(補講)	日本語初級Ⅲ	物部
日本語総合コース(補講)	中級聴解Ⅱ	朝倉	日本語総合コース(補講)	中級聴解・会話	物部
日本語総合コース(補講)	中級会話Ⅱ	朝倉	日本語総合コース(補講)	日本事情	物部
日本語総合コース(補講)	中級読解	朝倉	日本語総合コース(補講)	日本語初級・日本事情	岡豊
日本語総合コース(補講)	アカデミック日本語Ⅱ	朝倉	日本語総合コース(補講)	日本語中級	岡豊

### 年間行事予定

#### 1学期

- 4月
  - ・新入生オリエンテーション(朝倉キャンパス)
  - ・朝倉・物部キャンパス日本語総合コースオリエンテーション及びプレースメントテスト(対象:新入生・在来生)
  - ・日本語総合コース授業開始(15週)
  - ・健康診断(朝倉及び物部キャンパス)
  - ・チューターオリエンテーション(チューター講習会)
- 5月
  - ・学長との懇談会
- 6月
  - ・FD・SD研修会(日本語講演会)
- 7月
  - ・海外留学に関する説明会
  - ・留学生と日本人学生の合同講習会
  - ・進学説明会
- 8月
  - ・高知大学国際交流基金交付式
  - ・留学説明会(タイ\*予定)
- 9月
  - ・SUIJIセミナー(香川県内)

#### 2学期

- 10月
  - ・新入生オリエンテーション(朝倉・物部キャンパス)
  - ・朝倉・物部キャンパス日本語総合コースオリエンテーション及びプレースメントテスト(対象:新入生・在来生)
  - ・日本語総合コース授業開始(15週)
  - ・健康診断(新入生対象 朝倉及び物部キャンパス)
  - ・チューターオリエンテーション(チューター講習会)
  - ・黒潮祭・南風祭
  - ・留学フェア(モンゴル\*予定)
- 11月
  - ・ホームカミングデー
  - ・外国人留学生課外研修(見学旅行)
- 12月
  - ・学長主催外国人留学生等交流懇談会
  - ・学長杯争奪駅伝大会
- 1月
  - ・寒中水泳大会
- 2月
  - ・海外留学説明会
- 3月
  - ・高知大学国際交流基金報告会

## 高知大学 国際連携推進センター

〒780-8520 高知市曙町2-5-1 TEL:088-844-8145 FAX:088-844-8718